

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(180企業)をまとめた

製造業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

期 主要項目	2019年 4月～6月	7月～9月	10月～12月	2020年 1月～3月	4月～6月	7月～9月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						



晴
D・I 50.1～100



晴時々曇
D・I 20.1～50



曇
D・I 20～△20



曇時々雨
D・I △20.1～△50

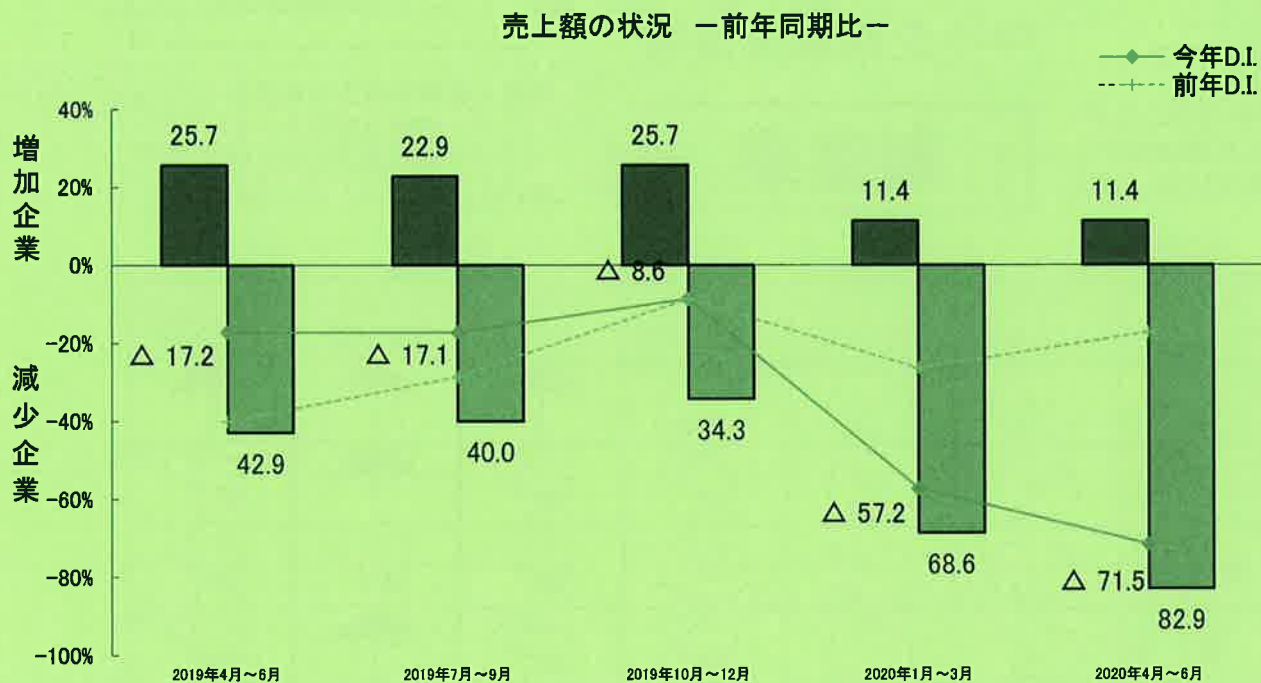


雨
D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる需要の停滞が続くと思う。インターネット通販は前年より売上が増加しているが、その他のマイナスが大きく、全体ではマイナスである。 新型コロナウイルスの影響を受け、イベント中止、飲食業等の業務用商品売上低下とマイナス材料ばかり。更に夏のお中元商戦は全く先が見えない状況である。 新型コロナウイルスの影響により、各種イベントの中止及び休業による取引先からの受注減により前年比50%での売上が続いており、厳しい状況である。また先が見えてないので、6月の実績見込みも前年度の半分とみている。 新型コロナウイルスの影響で、水揚げ業に対して売上高が減少している。早く収束してほしい。 新型コロナウイルスの影響で、今まで行われていた行事が、市町村のものから個人(仏事、祝い)まで縮小もしくは、中止になっているので、今後どうなるかわからない。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で仕事の依頼が減少している。先の見通しもよくない状況が続くと思われる。 今期、新型コロナウイルスの影響で予定受注していた工事が、保留や中止となり大きく予定が変わってしまった。夏あたりまでは工事量の確保はできたが、秋以降は不透明な部分が多く、不安な現状である。 新型コロナウイルスの影響で景気が下降危惧されたが小規模工事について資材の一部納期遅れがある程度で落ち込みは軽いと思う。ただ3密を回避するため、各社ともに営業、施工を自重しているように思える。今後の景気の行方を思うと不安が先に立つ。 新型コロナウイルスの影響が出始めた。今後いつまで続くか心配である。 新型コロナウイルスの影響で、5月の売上が下がっているが、仕入れや手数料などの支払いはあるため、大変厳しい状況である。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス対策の非常事態宣言で人の動きが止まり、イベント、行事の中止などで納品もなくなった。 新型コロナウイルスの影響は大きく、持続化給付金支援で資金繰りはなんとかあったが、今後の事業に不安が残る。 令和2年3月頃から新型コロナウイルスの影響により、売上が減少してきた。3、4、5月で2割減となった。これにより生活様式が変わっていきだろうから、それに合わせた経営スタイルを考えていかなくてはならない。 5～6月までは、新型コロナウイルスの影響があるだろうと見ていたが、長期に続くと思われる。我々酒販店においても、イベントの中止や委縮自粛の広がり、飲食店等の需要が急減し、しばらくはこの状態が続くものと思われる。 新型コロナウイルスの悪影響が続く今期は、たとえ6月中に10万円の持続化給付金があったとしても、消費者の財布のひもは固く、売上・来客者数共に非常に厳しくなると考えている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる営業自粛、営業形態の変更(お持ち帰りのみの営業)を余儀なくされたため、今後の営業も今まで通りに戻れるかわからない不安がある。 新型コロナウイルスの影響が経営状況を悪化させている。市や県の助成金等対策を打ち出してもらっているので、今後売上が少しづつ戻ってくるようにコロナ対策もしっかりとして従業員の健康を守り営業する。 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が大きく、まったく先が読めない。今、できる対策をしっかりと行い、新しい営業形態を作らなければいけない。今までの当り前では通用しなくなると思う。 新型コロナウイルスの影響を受け、売上が落ち込んだが、なんとかぎりぎりのところで踏みとどまっているので、来期は取り戻せると思う。しかし、何か別の新しいことに挑戦するいい時期かもしれないと思った。 昨年10月の消費税増税から売上が減少してきて、2月の新型コロナウイルス禍で更に厳しさが増している。同じ商売の仕方では減少が止まらないので、新たな営業開拓及びネット事業の本格的な立ち上げが必要だと感じている。

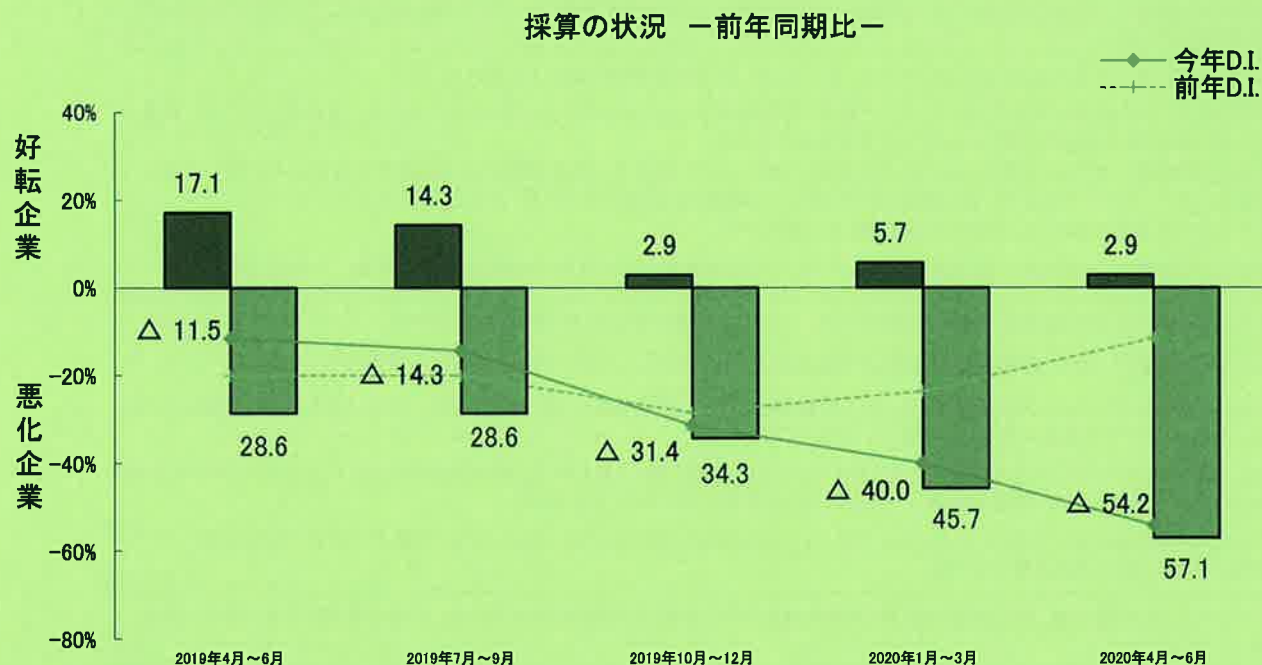
①【製造業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は11.4%と、前期の11.4%から変化はなかった。また、「減少した」と答えた企業は82.9%と、前期の68.6%から14.3ポイント増加した。したがって、今期D・I値は△71.5と、前期の△57.2から14.3ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は2.9%、減少すると予測した企業は65.7%で、これにより来期のD・I値は△62.8と、今期の△71.5から8.7ポイントの改善を予測している。

②【製造業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は2.9%で前期の5.7%から2.8%減少した。一方、「悪化した」と答えた企業は57.1%と、前期の45.7%から11.4ポイント増加した。したがって、今期のD・I値は△54.2と、前期の△40.0から14.2ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は0.0%、悪化を予測した企業は42.9%で、これにより来期のD・I値は△42.9と、今期の△54.2から11.3ポイントの改善を予測している。

③【製造業】新規設備投資の状況

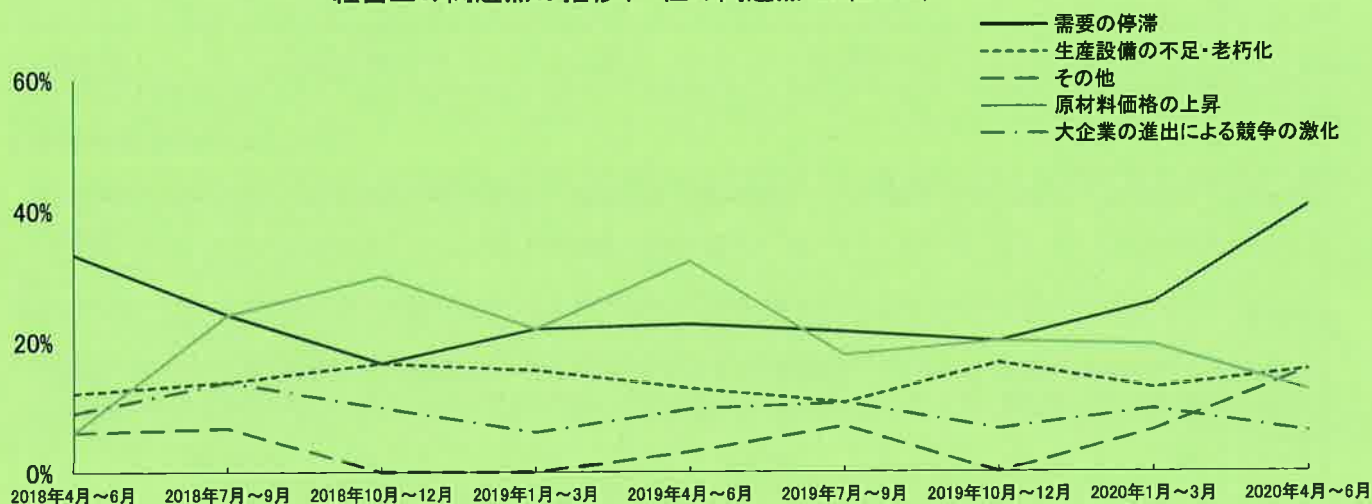
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して ・ 計 画 る	投資内容								実施 して ・ 計 画 い
		土 地	工 場 建 物	生 産 設 備	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 (2020年4~6月)	20.0	0.0	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	80.0
来 期 (2020年7~9月)	20.0	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	80.0

今期設備投資を行った企業は20.0%で、前期設備投資を行った企業(8.6%)を上回った。
来期は20.0%の企業が設備投資を計画している。

④【製造業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位は「需要の停滞」で40.6%、第2位は「生産設備の不足・老朽化」「その他」で共に15.6%、第3位は「原材料価格の上昇」で12.5%、第4位は「大企業の進出による競争の激化」で6.2%であった。需要が停滞する中で、生産設備の不足・老朽化が問題となっていることがうかがえる。

⑤【製造業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2020年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2020年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2020年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2020年 1~3月期	4~6月期	7~9月期
△ 57.2	△ 71.5	△ 62.8	△ 40.0	△ 54.2	△ 42.9	△ 23.5	△ 31.4	△ 34.3	△ 40.0	△ 69.7	△ 50.0
傾向	↘	↗	傾向	↘	↗	傾向	↘	↘	傾向	↘	↗

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

来期の見通しは、「売上(収入)額」「採算」「業況」の項目で好転を示しているが、「資金繰り」の項目で悪化を示している。調査対象企業のコメントでは、新型コロナウイルスの影響による売上の減少や今後の不透明感といった意見が多く、今後も厳しい状況が続くものと推察される。

景況概要

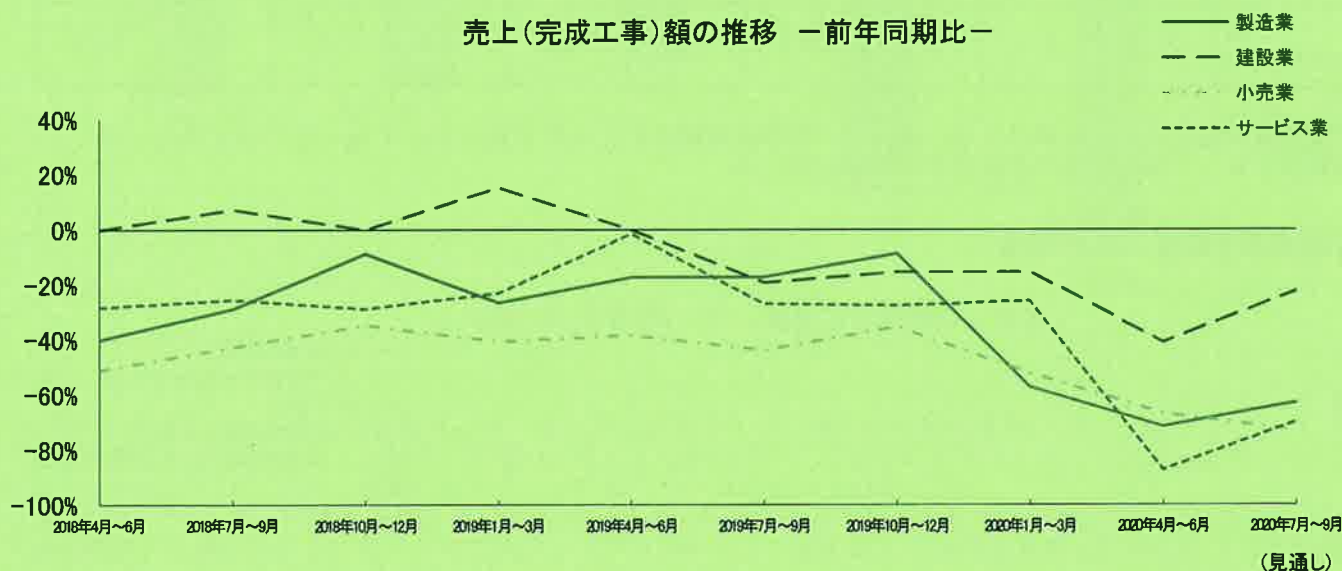
長崎県の全産業

【売上】

今期はすべての業種で悪化を示し、「製造業」（14.3ポイントの悪化）、「建設業」（25.4ポイントの悪化）、「小売業」（14.6ポイントの悪化）、「サービス業」（61.1ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのが、「製造業」（8.7ポイントの改善）、「建設業」（18.6ポイントの改善）、「サービス業」（17.5ポイントの改善）。悪化を示したのは「小売業」（6.1ポイントの悪化）であった。

売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-

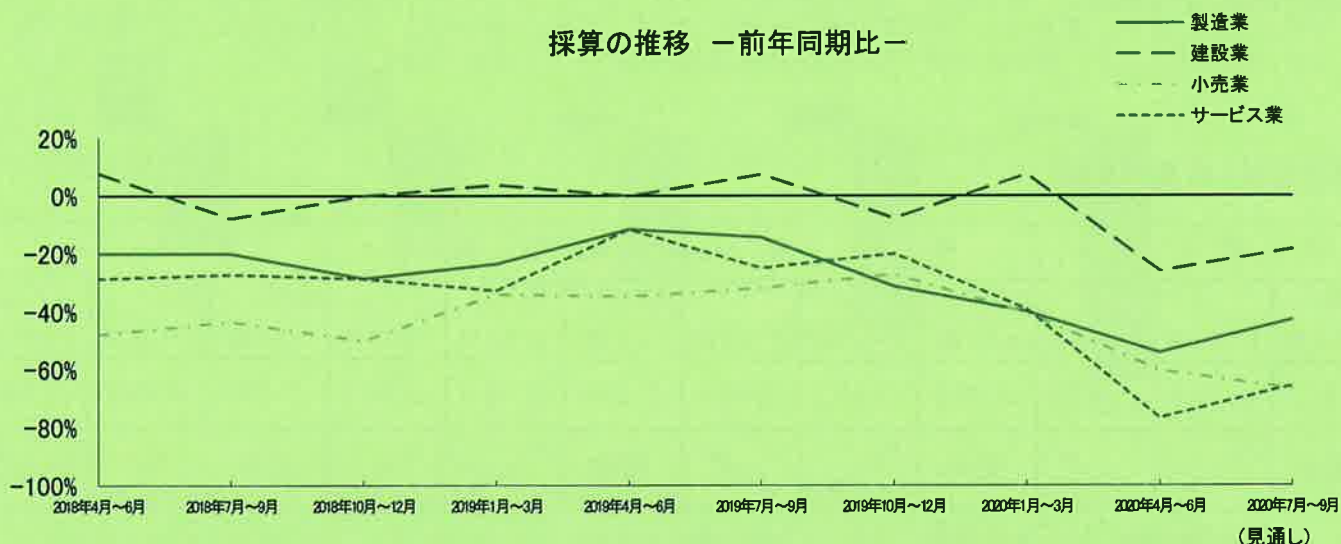


【採算】

今期はすべての業種で悪化を示し、「製造業」（14.2ポイントの悪化）、「建設業」（33.3ポイントの悪化）、「小売業」（19.9ポイントの悪化）、「サービス業」（37.6ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのは、「製造業」（11.3ポイントの改善）、「建設業」（7.4ポイントの改善）、「サービス業」（11.1ポイントの改善）で、悪化を示したのは「小売業」（6.3ポイントの悪化）であった。

採算の推移 -前年同期比-



〔注〕本レポートの中で「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。